

キャラクター名
白瀬 真尋(しろせ まひろ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	UGNエージェント
	キュマイラ					
オプション			年齢	17	性別	女
覚醒	感染	衝動	加虐		初期侵食率	29 %
出自	疎まれた子		経験	大勝利	邂逅	好敵手

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	6	1	1			8	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	0	1			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転:			芸術: 音楽	3		知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ギター	白兵	8r+1	0	3		<芸術: 音楽>の達成値+1
破壊の爪	白兵	8r+4	1	9		
ゲットレディ	白兵	13r+4	1	9		戦闘の準備をしつつ、戦闘移動を行う 侵蝕値10 2+3+5
パワーオブクロウ	白兵	13r+4		15		C値8 侵蝕値4 1+4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

所持品	
情報収集チーム	
スマホ	
アクセサリ	
カジュアル	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 申し子P		N		
祖父母	P 誠意	N 恐怖		
後輩	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C: キュマイラ	2	2	メジャー			対決		
効果: C値-LV(下限値7)								
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 肉体を使用した判定のダイス+LV+2								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 命中0 攻撃力LV+8 ガード値1								
獣の力	2	2	メジャー	武器		対決		
効果: 攻撃力+[LV*2]								
ターゲットロック	5	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果: 攻撃力+[LV*3]								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 戦闘移動を行う								
神獣撃	5	2	メジャー	武器	単体	対決	80↑	
効果: 攻撃力+[LV+2]D メインプロセス終了後完全獣化解除								
フルパワーアタック	5	4	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果: 攻撃力+[LV*5] 行動値0								
獣の王	1	4	メジャー	武器	単体	対決	100↑	
効果: リアクション不可								
攻勢変色	5	3	セットアップ	視界	単体	自動	リミット	
効果: 攻撃力+[LV*5] 暴走を受ける								
セレリティ	1	5	メジャー	至近	自身	自動		
効果: メジャーアクション2回 HP10-LVロス								
異形の痕	★		オート	至近	自身	自動		
効果: 体の一部が異形に変化する								
鋭敏感覚	★		メジャー			自動		
効果: 感覚器官を変化させる								

生真面目な性格のエージェント。
誰に対しても敬語を使って話すため取っつき難いと思われがち。
家業を継ぐことを期待されて育ったが、それを拒否したため両親を除く親族から良く思われていなかった。
そんなこともあって次第に人に対して心を閉ざすようになっていった。
ある時、レネゲイドウィルスに感染し生死の境を彷徨うがオーヴァードに覚醒することで一命をとりとめる。
それを期に元々家に居づらかったというのと、人の役に立つ仕事をするのが夢だったこともあってUGNで働くことを決意する。
当然危険なことも多いので両親は反対したが、説得に説得を重ね何とか許してもらった。
エージェントになったからは放課後にUGNとして仕事をするようになったが、しばらくは特にこれと言ったこともなく過ごしていた。
中学校の卒業式の日、学校にジャームが襲来する事件が発生した。
それまでは先輩エージェントと組んで仕事をしていたため、一人での実戦は初めてだった。
生徒を守るため交戦するも押され気味のまま体力が尽きようとした時に『申し子』としての才能が開花。
その力を使ってジャームを撃破することに成功する。
新米エージェントが一人で多くの人を助けたということで支部の仲間達からは「大手柄だ」と褒められた。
それ以降は人に対して心を開けるようになったが、敬語はもはや癖になっていたため直らなかつた。
他の何よりも暴走した自分を恐れている。
とある任務の際衝動に身を任せて許しを請うFHのエージェントをなぶり殺しにしてしまった。
腕を引きちぎり、骨を砕き、それでも死なない様にしていたが続き続けた。
不快感と高揚が入り混じった変な感覚だった。それは今も忘れることなく頭に焼き付いている。
それが軽くトラウマになっており、衝動に飲み込まれまいと必死に抵抗している。
最近はそのなりに実績を積んだこともあり、一人の後輩を面倒見るようになった。

